

What's YASUDA Lab. ?

■ 時空の壁を超える教育のために

インターネットのおかげで人々はより世界と繋がっていき、様々な情報にアクセスすることがますます速く、簡単になっていきます。安田研究室では、新時代にふさわしいグローバルでインタラクティブな新たな教育方法について研究しています。インターネットやスマートフォンやAR（拡張現実）などの技術を活用して、様々な分野の教育を支援するシステムを開発しました。開発されたシステムは一般的な教室だけではなく、博物館などの公共施設や屋外でも利用が可能です。このシステムを開発するにあたり、あらゆるユーザについて理解を深めました。こういったユーザであっても指導や学習が簡単に行えるようになっています。特にパソコンに不慣れなユーザでも使いやすようにインターフェースに工夫を施しました。安田研究室はいつもユーザと寄り添ってシステムを開発しています。

ライフスタイルに合わせた進化する教育を実現する、安田研究室。

■ 双方向的な観光って？

「このレストラン一見オシャレだけど評価が悪いからやめておこう」「この参考書は初心者にはすごくわかりやすいです！」「バッテリーならあの店で買った方が300円安いみたいだ」——モノやサービスを選ぶときに、今やネット上の口コミは重要な判断材料になっています。消費者は潜在的に、提供者だけでなく他の利用者の意見も参考にしたいと思っているのです。さて話は変わって、週末です。どこかお出掛けしたいなと思ったそんなとき、あなたは何を参考にしますか？ 旅行雑誌やイベントサイト、以前テレビの情報番組で取り上げてた所に行きたい！ということもあるでしょう。でもこれらはみな提供者側の情報です。他の観光客が実際にどのように観光を楽しんだのか、それを共有する術が今まではありませんでした。安田研究室では、フォトラリーというスマートフォンのカメラ機能を使った観光支援システムを開発しています。観光エリアのスポットで写真をとって共有することで、まだ行ったことがない人でも楽しめるようになっています。観光組合の人にとっても、観光客がどのように観光しているのかわかれば、より良いサービスを提供できますね。

未来の観光を創出する、安田研究室。

■ 研究室をとび出し地域、世界へ

社会が抱える様々な課題や地域の活性化には、ICTの活用が必要不可欠です。地域の情報発信や地域内での交流を図って、ローカルSNSやポータルサイトを開設している地方自治体や地域団体もあります。しかしこれらの活動は、取り組みを支える中心人物の不足や導入コスト等の問題があり、取り組みが一時的なものにとどまる傾向があります。継続的に地域に根付いた活動にするにはどうすればよいでしょうか……。安田研究室では、住民が自らの力でICTを活用することを目的に、町内会・子ども会・子育てサークルといった地域コミュニティにおいて、情報発信の促進や運営の効率化を目指して研究を行っています。具体的には、各コミュニティで必要な資料の作成方法や、コストを抑えた運営環境の構築、後任のための人材育成を行っています。他にも地域の様々な取り組みに参加し、積極的に地域住民と触れ合うことでつながりを強固にして、互いに信頼できる関係性の構築を行っています。

地域住民に寄り添い情報化に取り組む、安田研究室。

■ 情報の海から新たな価値を生み出す

ソーシャルメディアが実社会に与える影響力はますます高まっています。これまでは雑誌や新聞の広告・テレビCMなどが販売促進機能としての役割を担っていましたが、最近ではSNSの口コミ効果が商品の売れ行きに関わっていることが分かってきています。私たちはそれを実証するために、SNSの中でもTwitterの口コミが、AppStoreやGooglePlay、Amazonのランキングへどう影響するかを調査・分析し、マーケティングへの有効性について検討しています。その結果、AppStoreでのアプリのランキング急上昇が起こる要因の約50%がTwitterでのツイート数の急増と関連していることがわかりました。急上昇前にはRTによる情報伝播が広がり、ユーザー間で話題になり、ダウンロード数が増えたと推測できます。ランキングが急上昇するタイミングは、通勤時と昼休み・夕食等の隙間時間であることも判明しました。よって、アプリを新たに売り出す場合、隙間時間の直前にTwitter上で一斉に宣伝すれば、AppStoreランキングの上昇する可能性が高いと考えられます。このように、消費者の購買行動に繋がるとされる広告媒体が、マスメディアだけでなくソーシャルメディアへと今まさに移行しています。

ソーシャルメディアから社会構造を分析・解明する、安田研究室。

